平成 31 年 2 月 25 日

生徒の皆さん
保護者の皆さま

大阪府立千里青雲高等学校
校長 田尻 肇

麻しん(はしか)患者数の増加にかかる注意喚起について (お願い)

大阪府における麻しん(はしか)患者の報告が増加しています。

大阪府感染症情報センターによると、2月17日時点での報告数は大阪府内で81人となり、昨年1年間の累積報告数が大阪府内で15人(全国282人)でしたので、既に昨年の報告数を大幅に越えています。

【麻しんについて】

- ・麻しんの感染力は強く、患者の咳やくしゃみを直接浴びた場合だけではなく、空気中を漂うウイルス粒子を吸い込むだけでも感染が成立。
- ・潜伏期間はおよそ10～12日間。
- ・潜伏期の後38℃台の発熱、せき、のどの痛み、鼻水、めやに、目が赤くなる、体がだるいといった症状がはじめ、症状は4日から5日間続く(カタル期)。
- ・カタル期は(風邪症状によく似ているため)かぜと間違えられることもある。
- ・麻しんの感染期間は、発熱出現前日から解熱後3日を経過するまで。
そのため、知らないうちに多くの人に麻しんをうつしてしまうこともある。
- ・カタル期の感染力が最も強いと考えられているので、麻しん疑いのある場合には、早期に対処をすることが重要。

※大阪府ホームページ「麻しん(はしか)について」

※大阪府感染症情報センターホームページ「麻しん・風しん情報」

※「学校における麻しん対策ガイドライン 第二版」(国立感染症研究所感染症疫学センター 平成30年2月作成)より

現在、本校の関係者に麻しん患者はおりませんが、大阪府や各市町村のホームページなどで最新の情報を知り、流行場所への不要な外出は避けるなどし、「麻しん(はしか)」を疑う症状がある場合は速やかに受診することをお勧めします。また、受診前に医療機関に連絡を入れ、受診の方法について確認してから病院へ行くようにしてください。

なお、万が一麻しんに罹患した或いは疑わしいと診断された場合は、すぐに学校へお知らせいただきますよう、よろしくお願いたします。(千里青雲高校 TEL:06-6831-3045)